



- 2 エッセイ／“おかね”を語る  
懐かしき昭和の「おかね」 コラムニスト 泉 麻人

- 4 インタビュー／扉を開く  
海獣と共に生きて 鴨川シーワールド海獣医師 勝俣悦子



- 9 地域の底力——壺屋やちむん通り  
「那覇まちま〜い」で新たな魅力を発掘した  
壺屋やちむん通りを訪ねて



- 16 対談／守・破・創  
不確実性の高い時代こそ、足元はしっかり、夢は大きく  
全国銀行協会会長・三菱東京UFJ銀行頭取 永易克典  
日本銀行総裁 白川方明

- 21 FOCUS → BOJ ③ 日銀の「業務継続体制」  
決済システムの安全性を保つ

- 25 日本銀行のレポートから  
「地域経済報告」(さくらレポート) —2012年1月— 【地域からみた景気情勢】

- 28 日本銀行の建物／その歴史と変遷について [5]  
支店建物の変遷 日本銀行文書局技師 中村茂樹

- 32 トピックス

- 35 AIR MAIL from BASEL  
国際金融システムの安定とFSB



## 表紙のことば

今回掲載した、日本銀行北九州支店の前身である西部支店<sup>さいぶ</sup>は、明治二十六年(二八九三)、大阪支店に次ぐ日銀二番目の支店として開設された。その業務地域は、中国、九州両地方にまたがる広大なものであった。当初仮店舗で開業した後、明治三十一年(一八九八)、門司<sup>もんじ</sup>(現北九州市門司区)に二年三ヵ月もの歳月をかけて本格的なレンガ造りの店舗(表紙絵)が完成した。

その後、西部支店は近代日本の激動の中で波乱の歴史をたどることとなる。大正六年(一九一七)、熊本支店の設置とともに、西部支店は「門司支店」と改称。門司支店は昭和二十年(一九四五)の空襲で、金庫、公文庫を残して本館を全焼。仮店舗での営業は焼失翌日から四年五ヵ月続いた。昭和二十三年(一九四八)、大分支店の設置に伴い、「門司事務所」に改組された。

昭和三十八年(一九六三)、百万都市「北九州市」の発足を機に、門司事務所は「北九州支店」に昇格し、翌年に小倉に新築・移転して現在に至る。なお、西部支店跡地には、北九州市立門司生涯学習センター<sup>1</sup>が建てられている。



表紙・画 北村公司